

第1回瀬田川整備検討委員会
議事概要

1. 日 時：令和4年3月28日（月） 14:00~16:00
2. 会議方法：対面及びweb
3. 出席者：別紙 委員名簿参照

4. 議事概要

委員：淀川流域における治水の重要性から、また、市民の安全を守る上で鹿跳溪谷の改修は重要である。景観、観光、親水性等への影響を及ぼすこととなることから配慮が必要である。令和7年に国民スポーツ大会を予定していることから、事業スケジュールについて、配慮して頂きたい。

事務局：委員の皆様からご意見を頂いた上で鹿跳溪谷の改修について検討を進めていく。国民スポーツ大会の期間中に工事を実施する場合、国民スポーツ大会に極力支障がでないように使用者と調整し、配慮していききたい。

委員：鹿跳溪谷において、流下能力1500m³/sを確保するとあるが、いつまで継続する計画となるのか教えて頂きたい。

事務局：淀川水系河川整備計画において、琵琶湖の後期放流に対応するため、1500m³/sの流下能力を確保すると記載している。基本方針においても、1500m³/sと変わらないものとなっている。

委員：現段階で、流下能力1500m³/sは最大洪水によって定められたものであり、今後それ以上の洪水が起これば、目標の流下能力が増大するということはありえないことではないと理解した。

委員：瀬田川洗堰の全閉操作の規則は、今後長期にわたって続くのか見通しを教えていただきたい。

事務局：瀬田川洗堰の全閉操作は、平成4年に瀬田川洗堰操作規則が定められ、各関係機関から意見を聞いている状況であり、今後も継続していくことになる。

委員：景観については、都市部では複雑で様々な要請が生じるところだが、鹿跳溪谷においては、自然景観に絞られるため比較的難しい条件が少なく、調和を図りやすい。景観の側面よりも生態等の自然環境が問題になるのではないか。

委員：鹿跳溪谷の流下能力確保の方法として、掘削、トンネル、他の方法など、考えがあれば教えて頂きたい

事務局：流下能力確保については、掘削を想定しており、掘削・トンネルを比較検討した結果、河道掘削案が優位となっている。今後、頂いた意見を踏まえ、検討整理した上で、御説明させていただく。

委員：自然景観については、掘削による影響は少なく、ある意味柔軟に対応可能であると思われる。生態系については、掘削になるのか、トンネルになるのか、それ以外の方法になるのか、によって、影響を受けやすい。貴重種等の扱いがどうなるかが重要となろう。

委員：鹿跳溪谷は歴史的に人が入って整備したことがあるか。

事務局：大規模な改修については、文献などでは確認できていない。自然状態であると認識している。

委員：資料2の8頁、琵琶湖浸水被害の記載があるが、琵琶湖総合開発で琵琶湖水位が上昇しても被害が出ないように排水機場がある箇所でポンプアップしているはずであるが、なぜ被害が出たのか理由を教えてください。

事務局：琵琶湖沿岸の全地点で、排水機場が設置されているわけではなく、設置されていない場合は、浸水することになる。たとえば、資料の高島市の浸水は、宅盤高が低い家屋1軒のみ浸水している状況である。琵琶湖総合開発事業は全ての地区を対象に対策したのではなく、全体的な事業量を考慮している。

委員：琵琶湖沿岸部の浸水被害を軽減・回避するため、琵琶湖の上昇した水位を速やかに低下させる対策として、鹿跳溪谷の改修を推進していただきたい。

委員：自然公園法、滋賀県指定の自然記念物の甌穴については、必要な協議を進めていただきたい。

事務局：平成14年、滋賀県が米かし岩を自然記念物に指定する際、河川管理者である近畿地方整備局と協議した結果、河川管理者が必要と認めるときは指定が解除できることとしている。指定されているから手を付けることが出来ないのではなく、必要な協議を行った上で、保全できるものは保全するような改修検討を進めていきたい。

委員：水面利用については、令和7年の国民スポーツ大会や前年のリハーサル大会があり、支障がないように配慮していただきたい。鹿跳区間は、

国民スポーツ大会があることから利用者の増加が見込まれるため、カヌーなどの水面利用者のご意見に配慮した整備をして頂きたい。また、観光について、当該区間は景色もよくラフティングなど水面利用されている。観光資源として可能な限り持続出来るように配慮して頂きたい。

委員：漁業権について、鹿跳溪谷には漁業権は設定されていないが支川の信楽川や大戸川には漁業権が設定されているため、影響がないように配慮して頂きたい。

事務局：漁業権のある信楽川は、鹿跳橋下流であり検討対象範囲外である。現在想定している掘削範囲は、67.6k 付近より上流であるため、漁業に影響は生じないと考えている。

委員：カヌー利用者や立木観音参拝等の利用・観光に配慮して頂きたい。また、周辺住民への理解について、意見は聞くのか教えて頂きたい。

事務局：観光利用や釣りなどにも利用されているため、それら利用者の意見については、随時聞いていく。また、観光利用以外の周辺住民の方にも随時意見を聞いていく。

委員：資料3の2頁にある平均河床の表について、68.0k 付近で河床状態の変化がある。河床を構成している材料を把握していく必要がある。また、3次元測量といった地形を把握していく必要がある。今後の委員会で示してほしい。

事務局：68.0k から上流は河道掘削が完了しているため低い河床になっている。68.0k から下流は、改修していないため凸凹した状態になっている状態である。また、68.0k から上流は200m ピッチ、鹿跳溪谷区間は10m ピッチで横断測量を行っている。3次元的な地形測量や河床材料については、今後の委員会において、具体的な議論して頂くため、整理して提示していきたい。

委員：平水時、洪水時において、流速・地質の状況は参考になり、流況と環境の関係が判ることが望ましい。

委員：大戸川ダムによって、支川大戸川からの土砂供給が減少することがあるのか教えて欲しい。

事務局：大戸川ダムは流水型ゲートの設置を想定しており、通常時は土砂をそのままダムを通過させ、土砂が流れていくように検討中である。

委員：洪水時のせき上げによって、土砂がどのようにダム湖に溜まるのか、下流に流出するのかを見るのが重要となる。

委員：滋賀県内で流域治水というものがあるが、琵琶湖周辺にある内湖や淀川にある巨椋池は、超過洪水が起こった場合、残っている部分は使えるのかといった、想定を超えたときの状況を意識していることが重要。

事務局：流域治水については、自治体や滋賀県が行っている事業に加え、農林水産省など琵琶湖流域全体に関係する機関と連携を取っている。流域治水の状況に変化があった場合は、御報告させていただく。

委員：資料2の8頁、平成30年度洪水における10日間の農地浸水について、鹿跳改修を行った後の効果は算出しているか教えて欲しい。

事務局：本日は説明できる資料の準備が出来ていないため、改めて後日説明させていただきます。

委員：流域全体で安全度を向上するにあたり、人の暮らしと安全を両立させる必要がある。流域の方が高次元で満足できるような事業を実施し、流域の方に理解していただく必要があるため、委員としては協力させていただきます。

委員：嵐山の河川整備での景観は、桂川の大龍寺十境など歴史的に続く景観である、水面が穏やかに見えるという点に注意して可動堤防等の整備を進めた。鹿跳溪谷の景観は、立木観音において弘法大師を背に乗せて川を跳び渡ったといった歴史も含め、例えば河床材料であれば何を変えて、何を守るのか、何が重要なのか、といった基本的な考え方を整理することが重要である。

委員：国民スポーツ大会への影響を極力減らすため、工事期間には配慮されたい。

委員：カヌー等の利用者は、事業の影響を心配されると思われるため、関係者には理解していただくため丁寧に説明していただきたい。

委員：立木観音へ参拝される方は、立木観音周辺の自然景観を楽しんでいる。立木観音周辺の雰囲気や原風景を残す工夫をしていただきたい。

瀬田川整備検討委員会 名簿

令和4年3月28日

○委員長

氏名	役職	分野	備考
かねこ ひろみ 金子 博美	公益社団法人 びわ湖大津観光協会 副会長	親水性 (利用・観光)	欠席
かわさき まさし 川崎 雅史	京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 教授	景観	web
さとふか よしふみ 里深 好文	立命館大学 理工学部 環境都市工学科 教授	治水	
なかがわ はじめ 中川 一	京都大学 名誉教授	治水・防災	
ふくしま まさき 福島 雅紀	国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 室長	河川	web
まえはた まさよし 前畑 政善	神戸学院大学 人文学部 元教授	環境	
行政			
氏名	役職	備考	
や の ともしき 矢野 公久	国土交通省近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所 所長		
いぶき のぶと 伊吹 信人	滋賀県 土木交通部 流域政策局 局長		
まつざわ ひでお 松澤 秀夫	大津市 建設部 部長		

(五十音順 敬称略)